



西新潟中央病院

NST NEWS 第15号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2015年1月6日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線 1303

NSTミニレクチャー 第9回 ～症例を通して学ぶ亜鉛欠乏症のお話～

月に1度の栄養の勉強、NSTミニレクチャーのコーナーです。

第9回は亜鉛欠乏症についてです。

・症例

まさご 太郎さん 60歳代 男性

お酒が好きで普段から食事は1日1回しか食べておらず、後はお酒を飲んで過ごしていた。

ある日風邪を引いて熱を出し、食事が食べられなくなり3日程寝込んでいた。

熱が下がらず衰弱が進み動けなくなったため、救急車を呼び病院に搬送された。



・身体所見

身長 160cm、体重 40kg、BMI : 15.6

皮膚はかさかさとして乾燥しており、手足には

発赤がみられた。

・血液検査

Alb (g/dl)	CRP (mg/dl)	亜鉛 (μ g/dl)
2.5	2.90	40

低 Alb 血症と、血中亜鉛の減少がみられた。

・経過

入院後発熱が治まってからは食事が食べられるようになり、体重は少しずつ増加した。

亜鉛の減少に対してプロマック®の処方を開始したところ、皮膚の乾燥、発赤は改善した。

・症例を通して

- ① 亜鉛は人体に必要なミネラルの1つで、細胞全体に広く存在しています。低栄養やアルコールの多飲で不足することが知られており、不適切な栄養補給が続くと最速2週間程度で欠乏症が発生します。
- ② 今回の症例では亜鉛の欠乏に伴う皮膚炎がみられました。亜鉛の欠乏症では味覚障害が有名ですが、その他にも免疫能の低下や高血糖(亜鉛がインスリンの合成、作用に必要なため)が知られています。
- ③ 今回の症例では亜鉛の欠乏に対して薬剤のプロマック®を使用しました。当院採用の補助食品ではアルジネード®、プロッカ®、エンジョイカップゼリー®に亜鉛が豊富に含まれています。亜鉛欠乏が疑われる場合は、ぜひご活用ください。

(文責：栄養管理室 澤田周矢)

第9回新潟NST研究会のご案内

日時：2015年1月24日(土) 14:30～

場所：チサンホテル&コンファレンスセンター新潟
4F「越後の間」

住所：新潟市中央区笹口1-1 TEL：(025)240-2111

参加費：1,000円

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

2014年は新病棟が完成し、当院も大きな転換を迎えた年であったと思います。

NSTも初心を忘れず、低栄養の改善と栄養療法の推進に努めていきたいと思っています。